

2026年度持田記念学術賞ならびに研究助成等について

公益財団法人持田記念医学薬学振興財団（理事長：持田直幸、以下「当財団」）は2026年度の持田記念学術賞受賞者、ならびに研究助成金および留学補助金交付対象者を決定しましたのでお知らせいたします。

今年度の持田記念学術賞には12名の研究者が推薦され、その中から東京大学の岡田随象博士、大阪大学の西田幸二博士を選出しました（褒賞金：1000万円／件）。研究助成および留学補助には887件の申請があり、研究助成金交付対象者100名（300万円／件）、留学補助金交付対象者20名（50万円／件）を選出しました。

今年度は研究者招聘助成金交付対象18学会（50万円／件）を含めて研究助成金等として総額3億3900万円を贈呈します。

研究領域		研究助成	留学補助	学術賞	招聘助成
領域1	バイオ技術を基盤とする先端医療に関する研究	10件	3件	2件	18件
領域2	バイオ技術を基盤とするゲノム機能／病態解析に関する研究	10件	3件		
領域3	免疫／アレルギー／炎症／感染症の治療ならびに制御に関する研究	27件	4件		
領域4	循環器／血液疾患の病態解析／治療制御に関する研究	15件	6件		
領域5	創薬・創剤の基盤に関する研究	23件	1件		
領域6	創薬とその臨床応用に関する研究	15件	3件		
合 計		100件	20件	2件	18件

当財団は1983年10月の設立以来、研究助成3056件（計67億1915万円）、留学補助681件（計3億4050万円）、持田記念学術賞87件（計5億2200万円）、研究者招聘助成369件（計1億8396万円）の総額77億6561万円の助成ならびに贈呈を行っております。

当財団は、今後も多くの研究者へ研究支援を行い、医学・薬学の振興に貢献してまいります。

以上

<本件に関する問い合わせ先>

公益財団法人持田記念医学薬学振興財団 zaidan@mochida.co.jp

2026年度持田記念学術賞受賞者

岡田 随象（おかだ ゆきのり）博士

東京大学大学院医学系研究科

遺伝情報学 教授

受賞研究テーマ

「遺伝統計学を駆使した疾患病態解明・ゲノム創薬・

個別化医療への貢献」



岡田博士は、ヒトゲノム・オミクス情報を統計学的に解析する遺伝統計学の第一人者として、疾患病態解明、創薬、個別化医療の発展に大きく貢献してきた。博士課程在籍時から国際コンソーシアムを主導し、国内外のバイオバンクとの連携により数百万人規模のゲノム解析を実施、2万箇所を超える疾患関連遺伝子変異を同定して日本人集団を含む疾患ゲノム情報の基盤構築を推進した。また、国際ゲノム政策提言などゲノム研究をめぐる国際的枠組みにおいても中心的役割を果たしている。2014年には、疾患ゲノム情報と創薬標的の情報などを分野横断的に統合する多層オミクス解析により創薬標的を発見する手法を世界に先駆けて提示し、新たな治療薬候補の同定への道を切り拓いた。さらに、人工知能や機械学習を活用した革新的解析法を開発し、疾患関連細胞の特定、HLA 遺伝子解析、遺伝子-環境相互作用の解明など多岐にわたる成果を創出した。新型コロナウイルス感染症（COVID-19）パンデミックに際しては東アジア最大級の COVID-19 オミクスコホートの構築に貢献し、重症化遺伝子や免疫機構を解明したほか、ウイルス感染と自己免疫疾患との関連も明らかにした。

岡田博士のこれら成果は、基礎医学から情報科学、創薬、疫学までを横断する研究を通じて遺伝統計学を基幹的学問分野へ発展させた先見的・独創的な研究業績であります。

○主な略歴 1980年9月生

2005年3月 東京大学 医学部 卒業

2011年3月 東京大学大学院医学系研究科 博士課程 修了

2012年1月 Research Fellow, Harvard Medical School and Broad Institute

2013年11月 東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科 テニユアトラック講師

2016年4月 大阪大学大学院医学系研究科 遺伝統計学 教授

2017年4月 免疫学フロンティア研究センター 免疫統計学 教授

2021年10月 理化学研究所 生命医科学研究センター システム遺伝学 チームディレクター

2022年4月 東京大学大学院医学系研究科 遺伝情報学 教授（現職）

○主な受賞歴

2012年 ベルツ賞 2023年 石館・上野賞 2023年 太田原豊一賞

2026年度持田記念学術賞受賞者



西田 幸二（にしだ こうじ）博士

大阪大学大学院医学系研究科

脳神経感覚器外科学（眼科学） 主任教授

受賞研究テーマ

「眼オルガノイド研究と難治性眼疾患に対する再生医療の開発」

西田博士は、角膜上皮と結膜上皮の分化機構を分子レベルで解明する研究に取り組み、世界に先駆けて両組織の網羅的遺伝子発現解析を報告した。さらに、角膜特異的遺伝子ケラチン 12 を同定し、Meesmann 角膜ジストロフィの原因遺伝子であることを明らかにするなど、組織特異的遺伝子、細胞分化、疾患発症の関係を示し、その後の幹細胞研究や再生医療の基盤となった。続いて、細胞シート工学を眼科領域へ導入し、角膜上皮幹細胞や口腔粘膜由来幹細胞を用いた細胞シート移植を開発、世界初の臨床応用へと発展させ、再生医療等製品として承認されるなど、再生医療の実用化に大きく貢献した。

また、iPS 細胞研究に着手し、ヒト眼の発生過程を再現する眼オルガノイド「SEAM」を世界で初めて開発した。SEAM は角膜や水晶体など前眼部から網膜までを再現できる革新的な技術であり、眼の発生生物学、疾患モデル、新薬開発、再生医療の基盤として高い汎用性を示した。これを用いて角膜上皮、結膜上皮、涙腺オルガノイド、網膜オルガノイドを作製し、世界初の iPS 細胞由来角膜上皮移植の臨床試験も成功させた。

西田博士のこれら研究成果は、基礎生物学から臨床応用までを一貫して実現した世界をリードする幹細胞・再生医療研究の発展に大きく貢献する先見的・独創的な研究業績であります。

○主な略歴 1962 年 9 月生

1988 年 3 月 大阪大学 医学部 卒業

1992 年 7 月 京都府立医科大学医学部 助手

1998 年 9 月 Salk 研究所（米国 サンディエゴ） 研究員

2000 年 9 月 大阪大学大学院医学系研究科 脳神経感覚器外科学（眼科学） 助手

2006 年 1 月 東北大学大学院医学系研究科 神経・感覚器病態学講座眼科学分野 主任教授

2010 年 4 月 大阪大学大学院医学系研究科 脳神経感覚器外科学（眼科学） 主任教授（現職）

2021 年 4 月 大阪大学先導的学際研究機構 副機構長（兼任）

2022 年 12 月 大阪大学ヒューマン・メタバース疾患研究拠点（PRIMe） 拠点長（兼任）

○主な受賞歴

2022 年 森下泰記念賞 2023 年 日本医師会医学賞 2025 年 紫綬褒章